神奈川県立横浜ひなたやま支援学校　学校だより

よこひな通信

年度末号　令和８年３月 11 日発行

校長　見目　茂則

「卒業に向けて、３年生へ」

今年度も地域の自治会等の皆様、事業所や学校関係等の皆様、保護者の皆様からの、教育活動への多大なるご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

さて、雪も降り、冬らしさもあった１、2月でしたが、春一番が吹いて以降、一歩一歩着実に、春の足音が聞こえています。校内の梅の花は早くも散り始め、校庭の大きな桜の木の枝には、開花に向けてじっくりと準備している芽が、数多く見られます。この時期の桜の開花準備の姿は、今年も元気に生きていますよ、という桜からの訴えだと思います。私たち人間にとっては、毎年この時期は、同じように変わらぬ気持ちで桜を見る人もいますし、毎年違った気持ちで桜を見る人もいます。人それぞれ異なるのは当然のことと思います。卒業生の皆さんも、3年前の入学式の日に桜を見たときの気持ち、明後日の卒業式を迎えるに当たっての桜を見る気持ち、どうでしょうか。毎年同じ思いを持ちながら、この時期の桜を見てきた人は、日々健康で3年間を充実して過ごしてきたということかもしれません。毎年違った思いで見てきた人は、一年一年心の成長を遂げてきたということかもしれませんね。

いろいろと考えを巡らしながら校庭に植わる大きな桜の木を眺めていますと、児童書「大きな木」(原題 The Giving Tree)の内容が、頭に浮かんできました。読んだ時の年齢やその時の立場によって、様々な解釈ができるストーリーです。既に読んだ人もいるかと思います。皆さんの周囲にも、支えてくれている「大きな木」のような存在がたくさんあるかと思います。むしろ既に皆さんが、サポートする役割を自然に行っているかもしれませんね。他人に頼ること、支えられることなしでは、生きていけないと思います。頼ることが、人とのつながりを生み出します。卒業後には社会に出ますが、ぜひ素晴らしい出会いをつかみ取ってください。自己実現を達成するための大事な一歩となります。「木は幸せでした」という言葉で「大きな木」は終わります。皆さん一人ひとりが、卒業証書を受け取る姿を見ることは、私たち教職員にとって最も「幸せ」な瞬間です。皆さんが年齢を重ねても、高等部3年間のつながりは消えることはありませんし、応援し続けます。

「春はもう少し」

最後になりますが、11期生43名の卒業を心よりお祝いすると同時に、卒業後は、横浜ひなたやま支援学校11期生一人ひとりが「責任ある」社会人として、誰もが安心して暮らせる世の中にしていくための力を発揮することに期待しています。

「春は間近に」